

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月19日(水)

### 《「真理」に自分を捧げる心・一つになるように》

おはようございます

今日はミサの後に勉強会がありますので、説教は簡単に申し上げます。

今日読んだ第一朗読(使徒言行録 20・28-38)と福音(ヨハネ 17・20-26)には共通点があります。それは何でしょうか。

使徒パウロも、この地を去りこの人々と離れたら、多分再び会うことはないだろうと言う気持で祈りの中で遺言を残すのです。そして福音は同じように弟子達のために祈られるイエス様の姿です。

『今、わたしはみもとに参ります。』しかし、私が使わそうとしたこの弟子達のために祈ります。

「一つになるようにどうかして下さい。」そして最後に『真理によってささげられた者となるためです。』という言葉を残します。

さあ、ある人は遺言さえ残すことなく死んでしまう場合もあります。ある人は遺言を残して死にます。皆様は遺言を準備していますか。私達が模範として「この遺言はすごい」と思える遺言がありますか？ イエス様は最後に『成し遂げられた』という遺言を残されたのでしたね。もしこのような言葉を残せば最高じゃないかと思います。色々な難しさがあっても最後の一言が『なし遂げられた』と言える様になりたいものです。この言葉のために、私も何とか動かなければならないと思います。

この様な言葉が残せるようになるための、唯一の方法は“真理のために自分を捧げようとする心”です。色々な人々、いわゆるこの世の中で英雄と言われた人達の残した遺言を見たら、何か悲しい事ばかりがほとんどです。

しかし、信者である私達は、光りの子である私達は「真理」のために自分を捧げる心、それはイエス様が見せて下さったその御心です。その心、何が美しいものであるか、何が汚いものであるか、何が正しいものか、何が好ましいものか、いつもわきまえた生き方する心、その心があれば失敗があっても、転んでしまった時があっても、私達は同じ方向、正しい方向に歩いて行けます。

その様な生き方をすれば、色々な結果は問題ではなく、「私は真理を求めながら今までやって来た」と、『なし遂げられた』という言葉が言えるのではないかと思います。

共にもう一つ考えたいのは、ずっと前に一度申し上げたと思いますが、一つになることを「一致」と言いますね。しかし、この一致という言葉の間違って考えてしまう人々が結構多いのです。

画一という言葉をご存知ですよ。画一、画一的なやり方、振る舞い。一致のことを画一と混同してしまう人々が結構います。例えば政治する者は、人々が同じ姿で同じ方向に動かされたら、一番コントロールしやすいのです。そういう意味で作られたものが沢山あります。例えばユニホーム、子供達が全員同じ服を着るようにすれば、担当者達は便利なところが沢山あります。「この子は学生、この

子はこのようにしなければならぬ。」そして「同じ道に歩みなさい。」同じ髪型とか、服の色とか、それを画一と言います。一致とは言いません。一致とは、多様性の中での一致です。色々な人々の違いの中で調和しながら一つになる事です。例えば十二人の弟子達は、全員人柄がちがいます。好みも性格も違いました。しかし、イエス様は十二人の一致を求めました。そしてそのようになりました。

皆様、うちの教会も色々違いがあります。人によって性格が穏やかな人もいるし、熱い人もいるし、気が早い人もいるし、ちょっと早くなってほしいと思う人もいるし、冷たい表情見せる人もいます。さまざまです。その中でイエス様が基準になって、美しい心を求めて行ければ、その共同体は一致の共同体と言えます。皆様、一致になることは本当に美しい事です。しかし、何かの力によって画一的な姿を保とうとすることは、上の者も下の者も全部だめになる事です。ですから、色々な違いの中で一つの心、一つの向きを持つように考えてみましょう。イエス様の最後の遺言の一つ、それは“この人々が一つになるように”と言う祈りであったことをもう一度意識しましょう。

ありがとうございました。